

#417572
#416709

ファン動力盤 G1-150-2(AC200V)

ファン動力盤 G1-150-4(AC200V)

取扱説明書

このたびは、弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用前に必ず本書をよく読み、正しく安全に使用してください。
また、お読みになった後はいつでも見られる場所に保管してください。

なお、品質、性能向上、その他の事情で部材の変更を行うことがあります。
その際には、本書の内容と一部異なる場合がありますが、
あらかじめご了承ください。

— 目次 —

安全上のご注意	1
1.特徴	5
2.各部名称	6
3.ご使用前の準備	7
4.制御について	14
5.ご使用方法	16
6.タイマについて	17
7.お手入れ方法	18
8.故障かな？と思ったら	20
9.仕様	21

— 関連図面 —

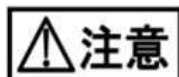
NGK1916
NGK1883

安全上のご注意

本書では、ご使用者への危害や損害を未然に防ぐための注意事項を「警告」と「注意」に分けてお知らせしています。
いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。



警告を無視して誤った取扱いをすると、
人が死亡又は重傷を負う可能性があります。



注意を無視して誤った取扱いをすると、
人が傷害を負ったり、物的損害が発生したりする可能性があります。



この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。



この絵表示は、必ず実行していただく「指示」内容です。



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

- ①この取扱説明書は、取付け、運転及び保守点検を担当される取扱者の手近な所に保管しておいてください。
- ②この取扱説明書や製品添付の注意書きの内容をよく読み、据付け、運転、運転保守を実施してください。
- ③据付けの前に必ずこの取扱説明書をよく読み、安全情報や注意事項、操作、取扱方法などの指示に従い、正しくご使用ください。
- ④常に、この取扱説明書に記載してある使用範囲に従ってご使用ください。また、正しい保守点検を行い、故障を未然に防止するようにお願いします。
- ⑤この取扱説明書に記載されていない据付け、操作、取扱いを行わないでください。
機械の故障、人身災害の原因になることがあります。これらに起因する事故については、
当社は一切の責任を負いません。
- ⑥この取扱説明書で理解できない内容、疑問点、不明確な点がございましたら、購入先にお問い合わせください。



十分な知識と経験を持った人が取り扱ってください。



スイッチ等の電気部品については、負荷電流、温度、衝撃等仕様が適しているか十分確認してください。動作不良や破壊、焼損の原因になります。



製品及び部品の分解、改造は、絶対にしないでください。
異常作動による火災、感電、怪我などの原因となります。



下記の条件や環境で使用する場合は、安全対策へご配慮いただくとともに、
当社へご連絡くださいますようお願いいたします。

- ・ 明記されている仕様以外での条件や環境での使用。
- ・ 公共の安全に係わる用途への使用。
- ・ 特に安全が要求される用途への使用。

(1)据え付けに関する注意事項



必ずアース(接地)を取り付けてください。



ファン動力盤の一次電源供給ケーブル及び、噴霧器(CLJ)への電源ケーブルは十分な太さとしてください。ケーブル断面積が少ない(細い)とケーブル長さにより電圧が降下し、機器の性能を発揮することができません。ケーブル芯数や周囲温度、電線管(可とう電線管等を含む)などの諸条件による減衰係数を考慮のうえケーブル太さ(断面積)を決定お願い致します。



不安定な場所に設置しないでください。転倒、怪我の原因になります。



火気の近くや高温の場所に設置しないでください。感電、漏電、変形の原因になります。



指定の電源以外では使用しないでください。火災、感電、故障の原因になります。



電源ケーブルの無理な曲げ、引張り、ねじることはしないでください。
断線して火災、感電する恐れがあります。



本機の据付けは、頑丈な壁・柱等にボルトを使用し、確実に実施してください。
落下等により、機器が破損することがあります。



以下の場所へ設置は避けてください。

- ・有機溶剤や酸・アルカリ雰囲気のある場所
- ・油煙が多い場所
- ・霧がかかる場所

(2)使用環境に関する注意事項



可燃性・爆発性・腐食性ガスを含んだ空気のある場所での使用は避けてください。
爆発・火災の原因となります。



振動、又は衝撃の起こる場所では使用しないでください。



ファン動力盤に水をかけないでください。火災、感電、故障の原因となります。



環境温度が 0～40℃の範囲で使用してください。
また、凍結しないように十分注意してください。



ゴミ、ホコリの多い場所でのご使用はしないでください。
過熱事故、電動機損傷の原因となります。



異常が生じた際には直ちに運転を停止し、電源を遮断してください。
火災、感電、怪我などの原因となります。



蒸気のある場所、及び湿度の高い場所での使用は避けてください。
湿度が高いと感電の原因になります。

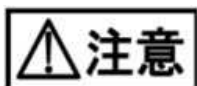


-  30℃以上の水を使用しないでください。破損の原因になります。
-  運転中、電動機はかなり高温になりますので、手や体を触れないようご注意ください。やけどの恐れがあります。
-  電源プラグの先端にホコリが付いている場合は、乾いた布で取り除いてください。漏電、ショートによる火災の原因になります。
-  本機の通風を妨げるような障害物を置いたり可燃物を置いたりしないでください。異常過熱の原因になります。

(3)保守・点検時の注意事項



-  清掃、保守、点検作業の際は、必ず電源を切ってください。感電の恐れがあります。

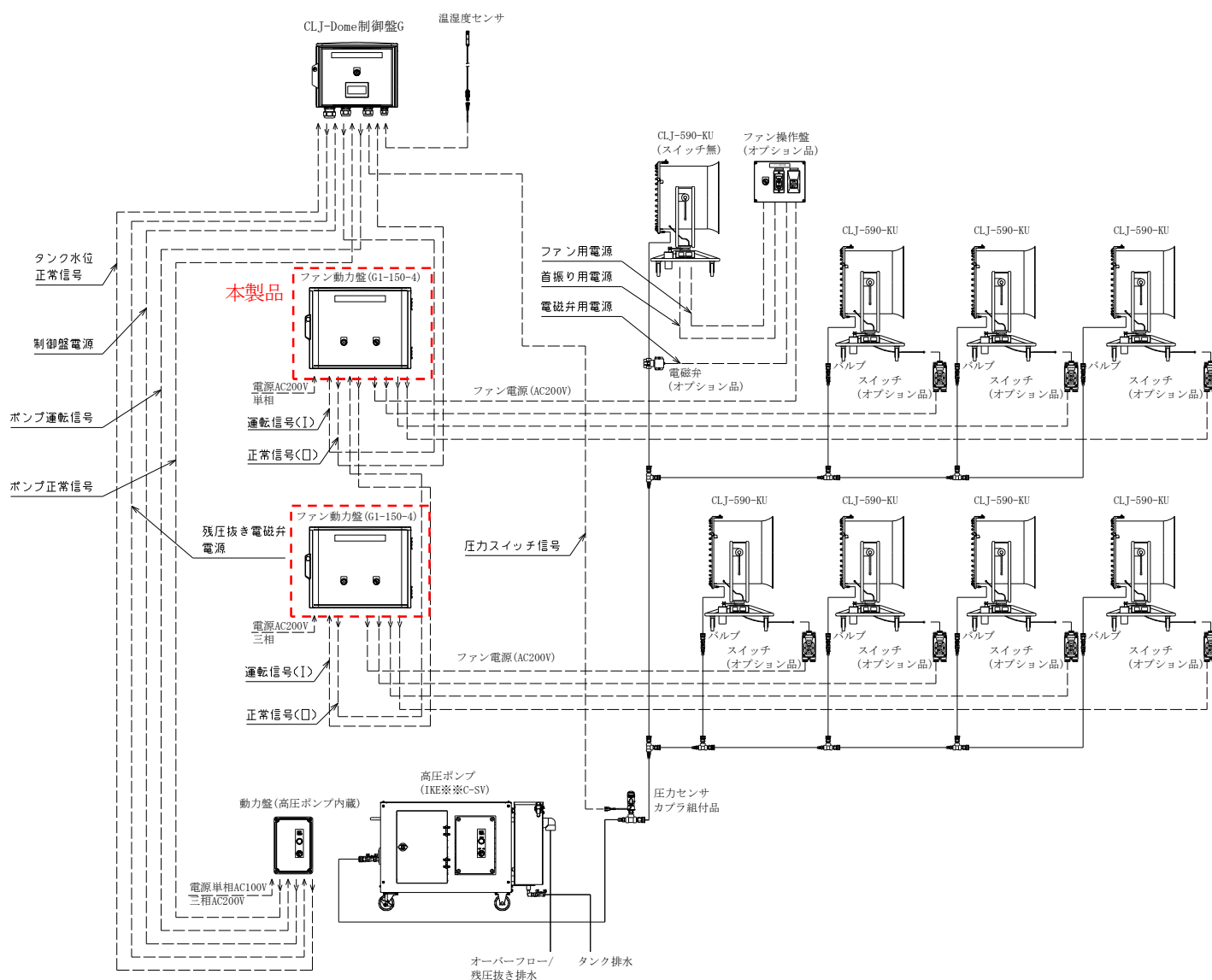


-  定期的に部品各部を点検し、少しでも異常や破損を発見した場合は使用を中止し、販売店にご相談ください。

1. 特徴

ファン動力盤は、噴霧器(CLJ)の運転を制御する動力盤です。
 運転時に噴霧する 10～30 ミクロンのセミドライフォグ[®]が蒸発する際に
 周囲の空気から熱を奪うことで、冷却効果をもたらします。

(1)機器フロー図



※標準的な構成を示していますので、実際の装置は一部内容が異なる場合がございます。

※ファン動力盤の電源は高圧ポンプの電源とは別で必要になります。

また、ファン動力盤への電源コード、及び制御盤、動力盤間の配線をご準備ください。

※図中スイッチはファンを個別で ON/OFF する場合に使用してください。

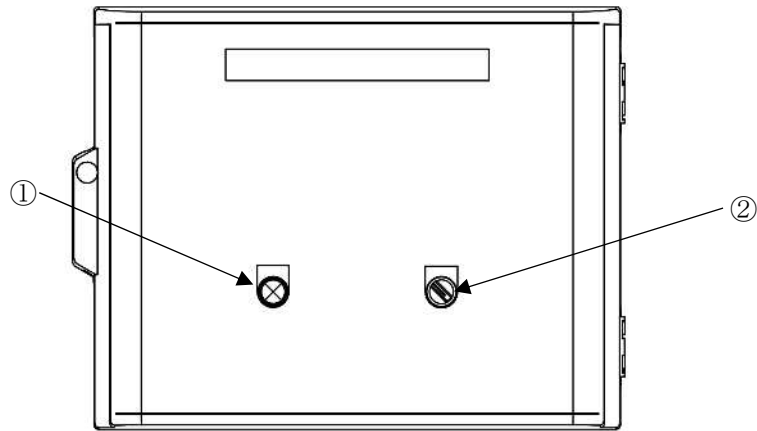
CLJ-590-KU(スイッチ無)のみオプションのファン操作盤を用いると首振りの ON/OFF も切り換えが可能です。

※図中バルブは一時的に噴霧したくない系統の噴霧を止める場合に使用してください。

オプションの噴霧電磁弁とファン操作盤を用いると手元操作にて開閉が可能です。

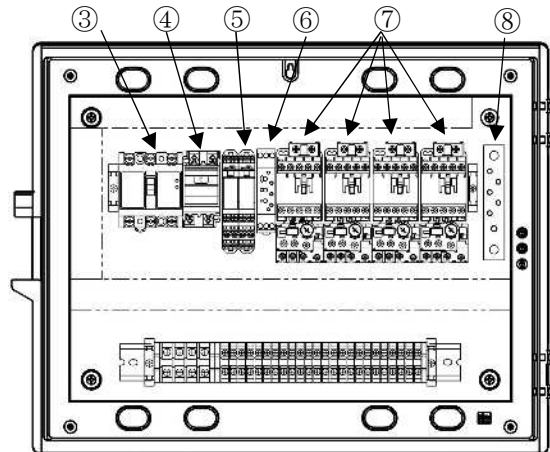
2. 各部名称

(1)ファン動力盤表面



	機器名	銘板	役割
①	電源灯	電源	電源供給時に点灯します。
②	運転選択 スイッチ	連続	連続運転選択をしている間、噴霧器(CLJ)が回り続けます。
		停止	噴霧器(CLJ)を停止します。(連動して噴霧も停止)
		自動	噴霧条件が揃うと、噴霧器(CLJ)が回り噴霧が開始します。 噴霧条件が成立しなくなると、噴霧が停止し噴霧器(CLJ)が停止します。

(2)ファン動力盤内部

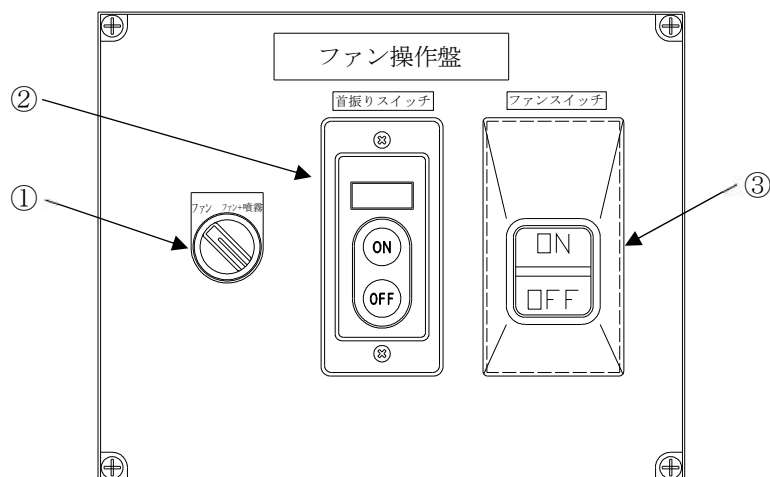


	機器名	役割
③	漏電ブレーカ	漏電流を感知する、又は過電流が流れると電気を遮断します。
④	サーキットプロテクタ	動力盤内の機器を保護します。
⑤	リレー	各機器の制御リレーです。
⑥	タイマ	噴霧停止時に少し遅れて噴霧器(CLJ)が止まるように制御します。
⑦	電磁開閉器	噴霧器(CLJ)の運転と停止を制御します。また過電流を検出します。
⑧	アースバー	アース線を集合させます。

※本図はファン動力盤(G1-150-4)になります。

ファン動力盤(G1-150-2)の場合は、電磁開閉器数が2個になります。

(3)ファン操作盤（オプション）



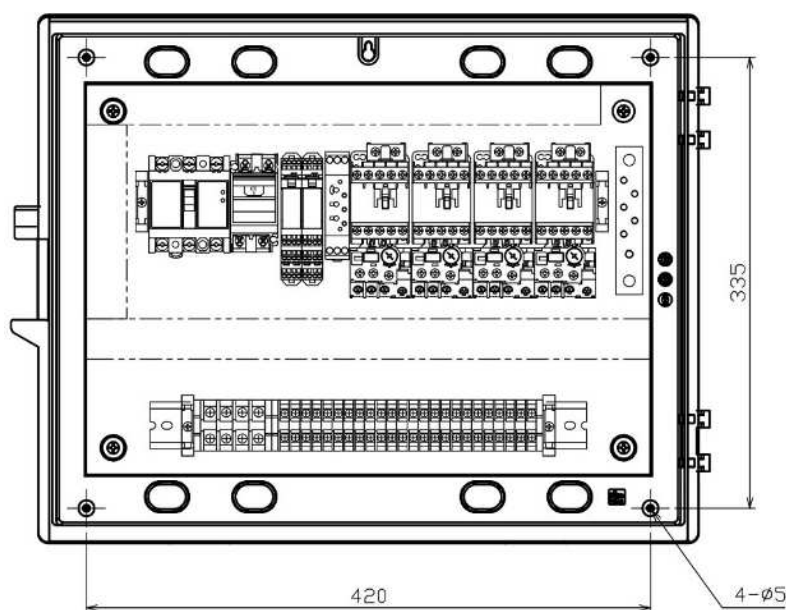
	機器名	銘板	役割
①	運転選択スイッチ※	ファン	自動運転時、ファンを動かします。
		ファン+噴霧	自動運転時、ファンを動かしながら噴霧します。
②	スイッチ BOX	首振りスイッチ	首振り動作を制御します。
③	スイッチ BOX	ファンスイッチ	ファンの電源を制御します。

※①運転選択スイッチで「ファン」へ切り替える場合は、別途噴霧電磁弁（オプション）が必要です。

3. ご使用前の準備

(1)動力盤の設置

霧のかからない場所を選定し、頑丈な柱や壁等にボルト等で固定して設置してください。



※動力盤の設置には M4 のネジをご使用ください。

※上記図はファン動力盤(G1-150-4)になります。

ファン動力盤(G1-150-2)の場合も制御盤サイズは同じになります。

(2)動力盤への配線

ファン動力盤の設置の際には、次項の端子台に正しく電気配線を行ってください。

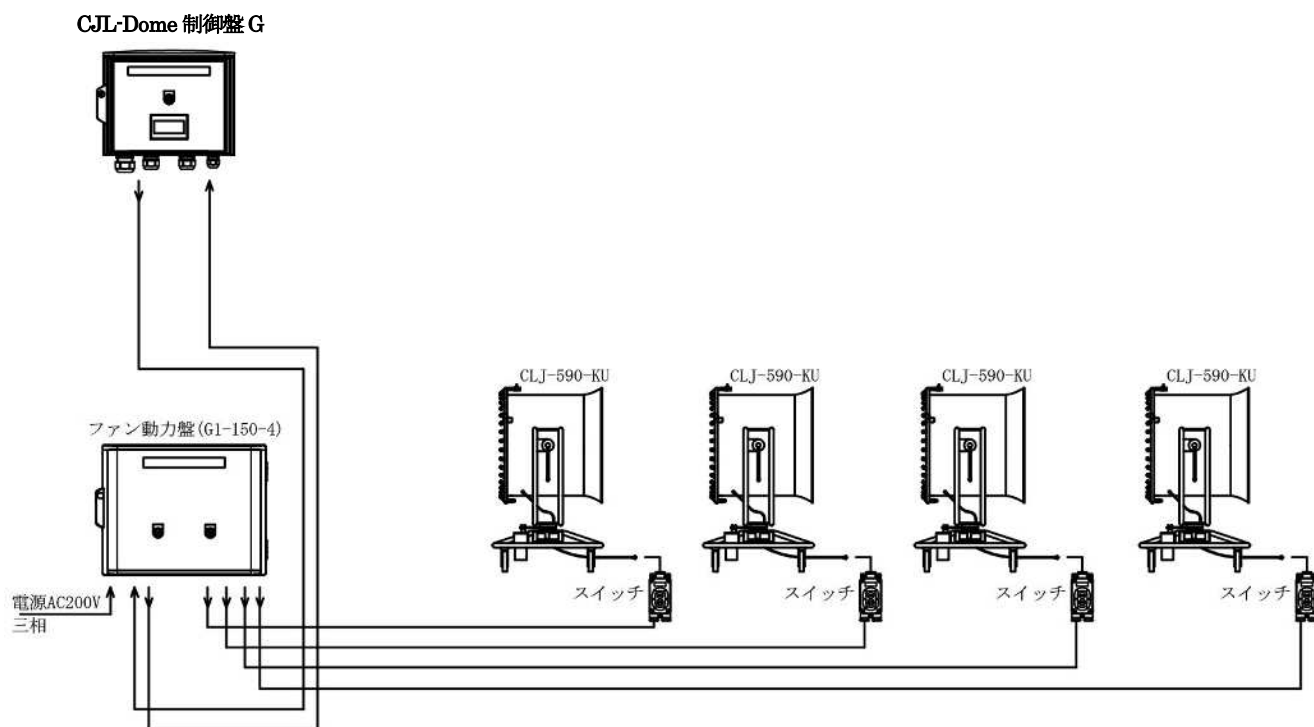
※1 部にはジャンパ線を接続して出荷しています。

ファン動力盤を複数台接続しない場合は外さないでください。

CLJ-Dome 制御盤 G 及びポンプユニット(動力盤)の結線方法は各機器の取扱説明書をご参照ください。

①ファン動力盤を1台(噴霧器(CLJ)4台まで)で使用する場合

a 構成イメージ

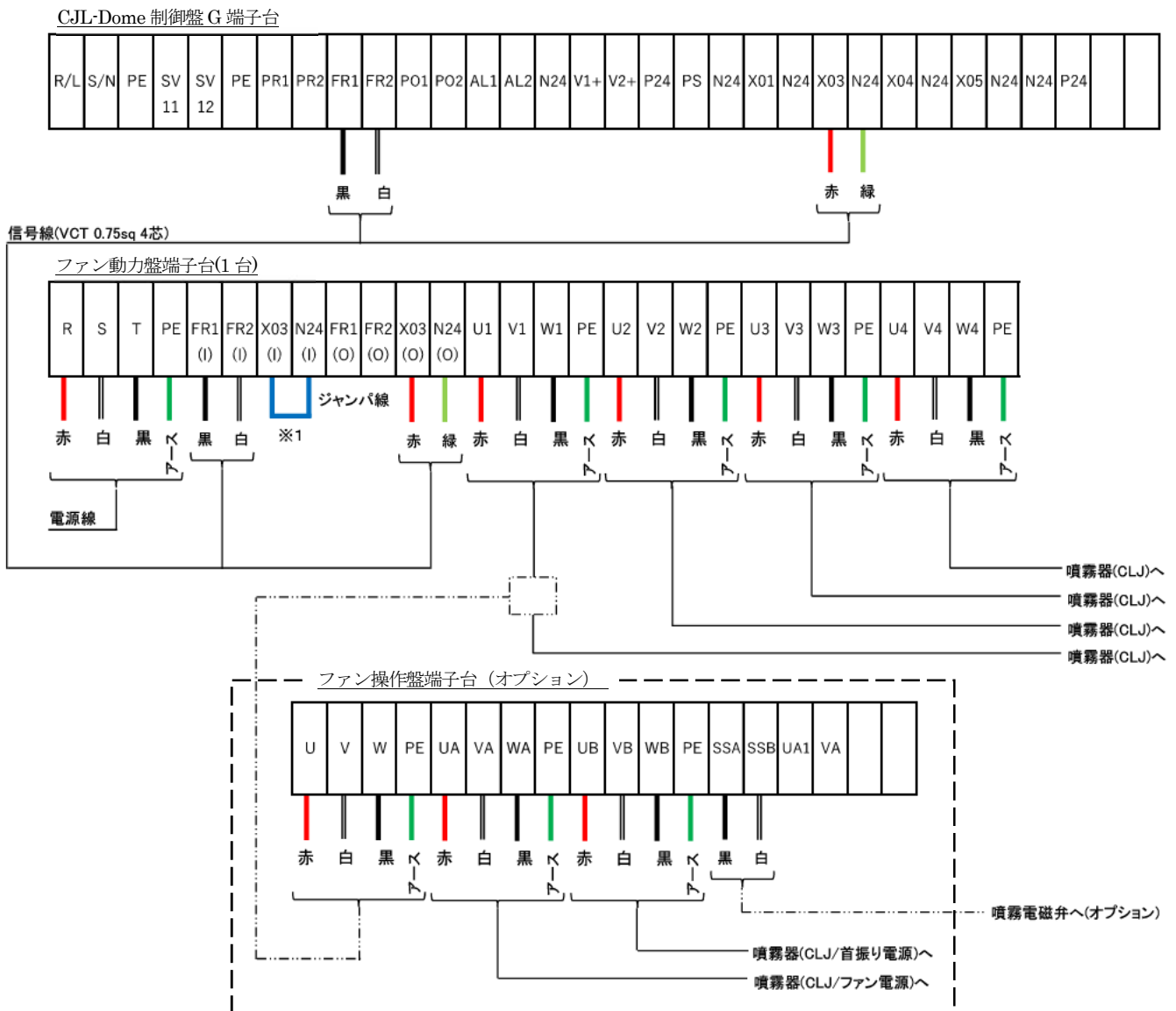


※2 台以下でのご使用の場合はファン動力盤(G1-150-2)をご使用ください。

b 端子台配線図

※本配線図はファン動力盤(G1-150-4)になります。

ファン動力盤(G1-150-2)の場合は、噴霧器(CLJ)が2台までの端子台になります。



- ・ファン動力盤の R、S、T、PE に電源線を接続してください。
- ・CLJ-Dome 制御盤 G の FR1 とファン動力盤の FR1(I)を接続してください。
- ・CLJ-Dome 制御盤 G の FR2 とファン動力盤の FR2(I)を接続してください。
- ・CLJ-Dome 制御盤 G の X03 とファン動力盤の X03(O)を接続してください。
- ・CLJ-Dome 制御盤 G の N24 とファン動力盤の N24(O)を接続してください。
- ・ファン動力盤の FR1(O)と FR2(O)端子はファン動力盤を複数台で使用するときに配線しますので、1台での使用では配線しないでください。
- ・ファン動力盤の U□、V□、W□、PE に噴霧器(CLJ)を接続してください。
- ・動力盤と噴霧器(CLJ)の間に必要に応じてオプションのスイッチ又はファン操作盤を設置してください。
- ・ファン動力盤の X03(I)と N24(I)間が※1 部のジャンパ線で接続してあることを確認してください。
外部からの信号線で制御する場合は、X03(I)と N24(I)のジャンパ線を外し、
外部で操作する機器の無線圧接点を X03(I)と N24(I)に接続してください。
- ・※1 部のジャンパ線はファン動力盤を複数台接続しない場合及び、外部からの信号線を接続する時以外は外さないでください。



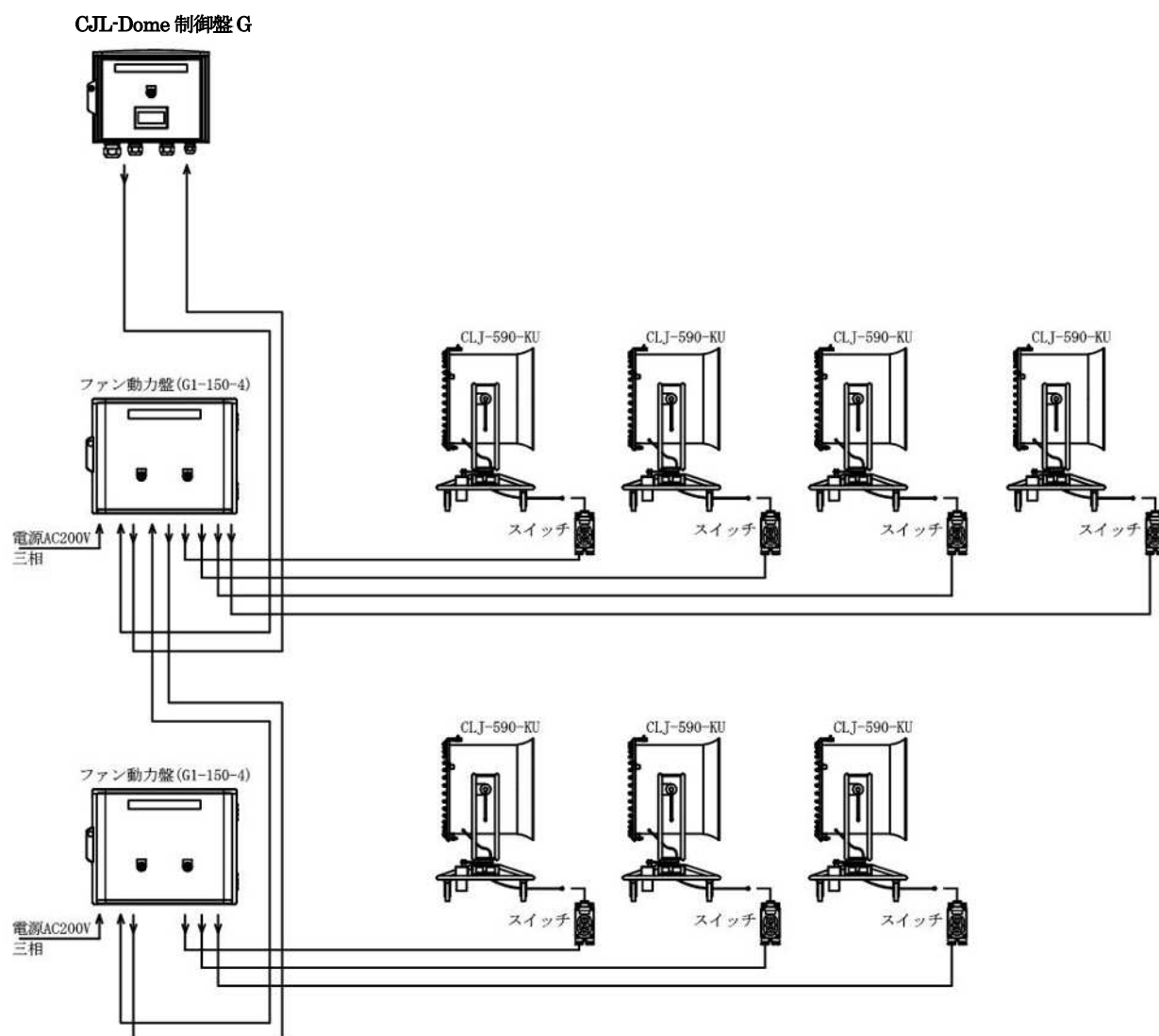
噴霧器 (CLJ) を複数使用する場合は必ず、複数の噴霧器 (CLJ) への配線を途中で集合させたりせずに、単独のケーブルでファン動力盤まで配線してください。



ファン動力盤の一次電源供給ケーブル及び、噴霧器 (CLJ) への電源ケーブルは十分な太さとしてください。ケーブル断面積が少ない (細い) とケーブル長さにより電圧が降下し、機器の性能を発揮することができません。ケーブル芯数や周囲温度、電線管 (可とう電線管等を含む) などの諸条件による減衰係数を考慮のうえケーブル太さ (断面積) を決定お願い致します。

②ファン動力盤を複数台(噴霧器(CLJ)5 台以上)で使用する場合

a 構成イメージ(噴霧器(CLJ)7 台を使用する場合)



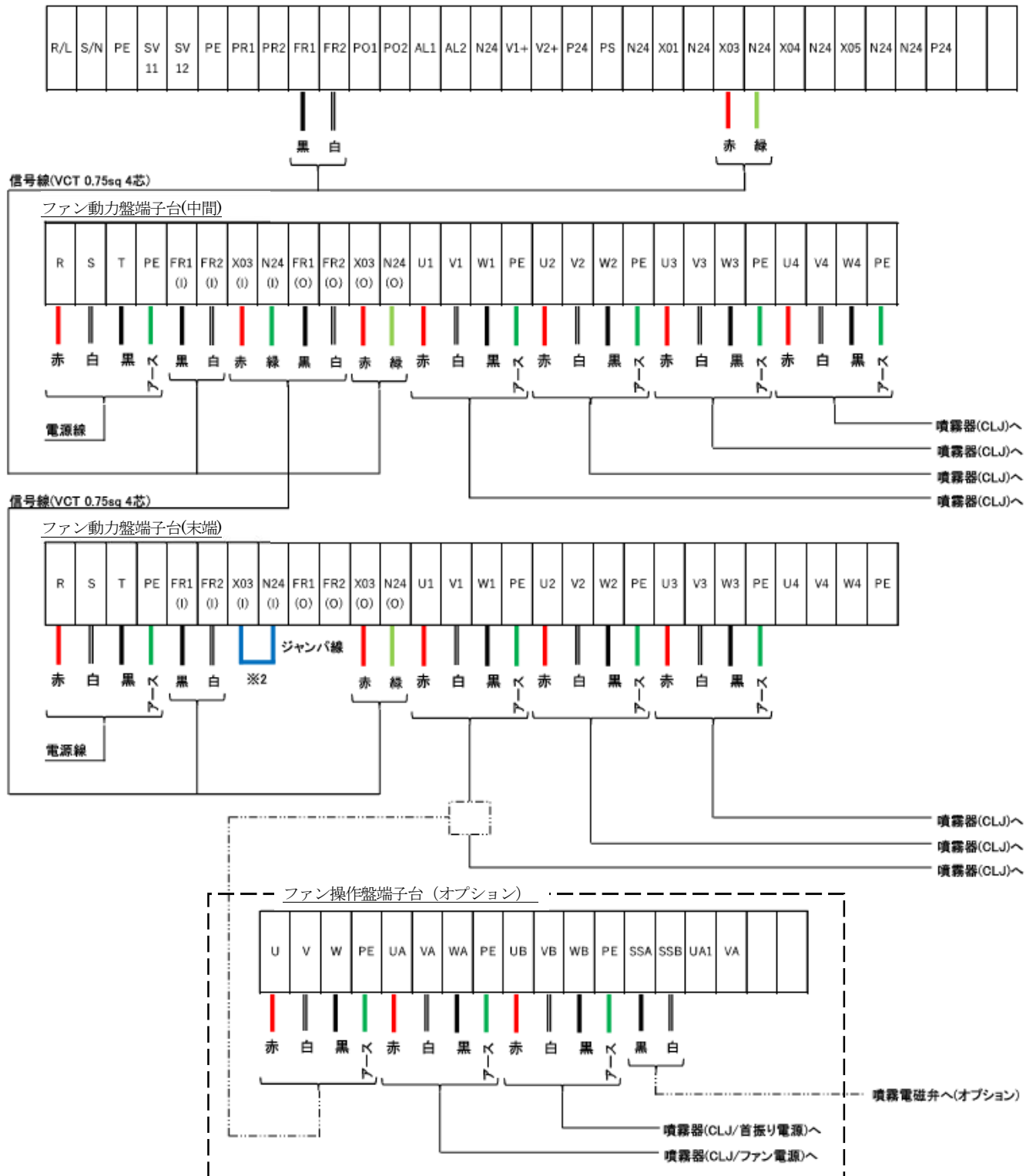
※ファン動力盤(G1-150-4)とファン動力盤(G1-150-2)を組み合わせ使用も可能です。

b 端子台配線図

※本配線図はファン動力盤(G1-150-4)になります。

ファン動力盤(G1-150-2)の場合は、噴霧器(CLJ)が2台までの端子台になります。

CJL-Dome 制御盤 G 端子台



- ・ファン動力盤の R、S、T、PE に電源線を接続してください。
- ・CLJ-Dome 制御盤 G の FR1 とファン動力盤の FR1(I)を接続してください。
- ・CLJ-Dome 制御盤 G の FR2 とファン動力盤の FR2(I)を接続してください。
- ・ファン動力盤の FR1(O)を次のファン動力盤の FR1(I)に接続してください。
- ・ファン動力盤の FR2(O)を次のファン動力盤の FR2(I)に接続してください。
- ・末端のファン動力盤の FR1(O)と FR2(O)は使用しませんので配線しないでください。
- ・ファン動力盤の X03(I)を次のファン動力盤の X03(O)に接続してください。
- ・ファン動力盤の N24(I)を次のファン動力盤の N24(O)に接続してください。
- ・ファン動力盤の U□、V□、W□、PE に噴霧器(CLJ)を接続してください。
- ・ファン動力盤と噴霧器(CLJ)の間に必要に応じてオプションのスイッチ又はファン操作盤を設置してください。
- ・末端のファン動力盤の X03(I)と N24(I)間が※2 部のジャンパ線で接続してあることを確認してください。
外部からの信号線で制御する場合は、X03(I)と N24(I)のジャンパ線を外し、
外部で操作する機器の無線圧接点を X03(I)と N24(I)に接続してください。

注意



噴霧器(CLJ)を複数使用する場合は必ず、複数の噴霧器(CLJ)への配線を途中で集合させたりせずに、単独のケーブルでファン動力盤まで配線してください。



ファン動力盤の一次電源供給ケーブル及び、噴霧器(CLJ)への電源ケーブルは十分な太さとしてください。ケーブル断面積が少ない(細い)とケーブル長さにより電圧が降下し、機器の性能を発揮することができません。ケーブル芯数や周囲温度、電線管(可とう電線管等を含む)などの諸条件による減衰係数を考慮のうえケーブル太さ(断面積)を決定お願い致します。

4. 制御について

本装置は、CLJ-Dome 制御盤 G、ポンプ動力盤と噴霧器(CLJ)が連動した制御装置です。

自動運転では CLJ-Dome 制御盤 G からの運転信号により運転します。

CLJ-Dome 制御盤 G からの運転信号が切れると、ポンプが先に停止し一定時間噴霧器(CLJ)が動いてから停止します。

連続運転では CLJ-Dome 制御盤 G からの運転信号に関係なく噴霧器(CLJ)が回り続けます。

外部からの信号線で制御している場合は、外部運転信号を ON しておかないと自動運転・手動運転共に動作しません。

噴霧が開始する前に噴霧器(CLJ)が先行運転するように、CLJ-Dome 制御盤 G での起動時残圧抜き時間を調整してください。(起動時残圧抜き時間の変更については、別紙 CLJ-Dome 制御盤 G の取扱説明書をご参照ください。) CLJ-Dome 制御盤 G からの運転信号が切れた後の噴霧器(CLJ)運転時間はファン動力盤のタイマで制御します。

※ポンプのみ運転させ噴霧が先行した場合、噴霧器(CLJ)の周囲が濡れるなどの悪影響を及ぼす可能性があります。

尚、本システムは全噴霧器(CLJ)での連動型ですので、いずれか1つのファン動力盤運転選択スイッチを停止にした場合は、ポンプは動作しません。

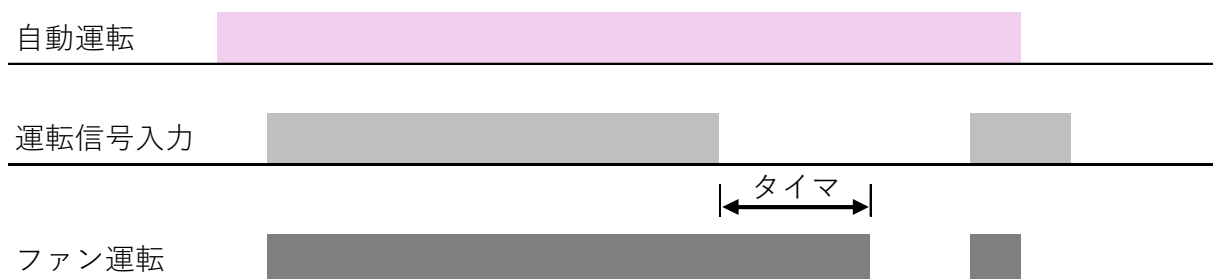
※噴霧を止めたい系統が有る場合は

スイッチ及び止水バルブ(オプション品)を使用して噴霧を止めてください。

(1)自動運転

自動運転中は CLJ-Dome 制御盤 G 又は上位のファン動力盤からの運転信号が入力されると

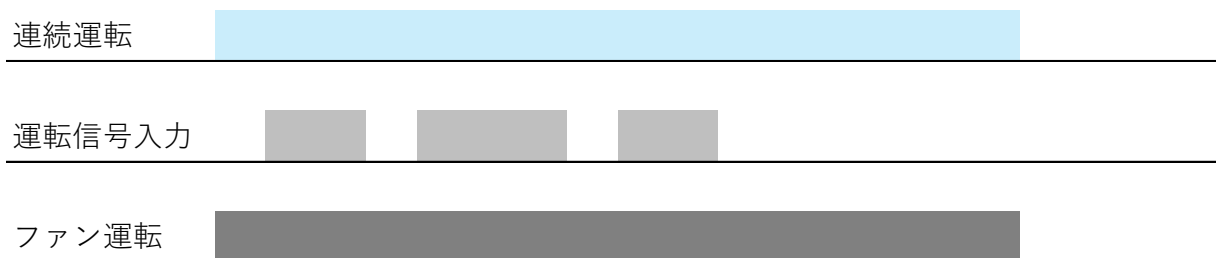
噴霧器(CLJ)が運転します。運転信号が切れるとタイマで指定した時間、噴霧器(CLJ)が回ってから停止します。



(2)連続運転

連続運転中は CLJ-Dome 制御盤 G からの運転信号の信号に関係なく噴霧器(CLJ)が回り続けます。

外部運転信号 X03(I)・N24(I)を OFF すると、噴霧器(CLJ)は停止します。



(3)外部運転信号入力について

ファン動力盤の X03(I)・N24(I)ジャンパ線部分を外し、X03(I)・N24(I)に信号線を繋ぐことで、外部からの機器で噴霧の ON/OFF を制御することができます。

X03(I)・N24(I)はジャンパ線で接続した状態で出荷しております。
外部運転信号を接続しない場合はジャンパ線を外さないでください。

外部運転信号を利用する場合には、無電圧接点の信号をご用意ください。
信号の接点が導通状態になると運転し、開放状態にすると停止します。



※複数のファン動力盤を接続する場合は、X03(I)・N24(I)端子はファン動力盤間の渡り配線(P12 参照)に使用します。末端のファン動力盤 X03(I)・N24(I)端子に外部運転信号を接続してください。

(4)停電について

停電が発生すると停止の状態になります。

停電が復帰すると自動的に再稼働しますが安全のため停電時には運転選択スイッチを「停止」にし、復電時に運転選択スイッチを「自動」あるいは「連続」に戻して運転を再開してください。

(5)異常発生時について

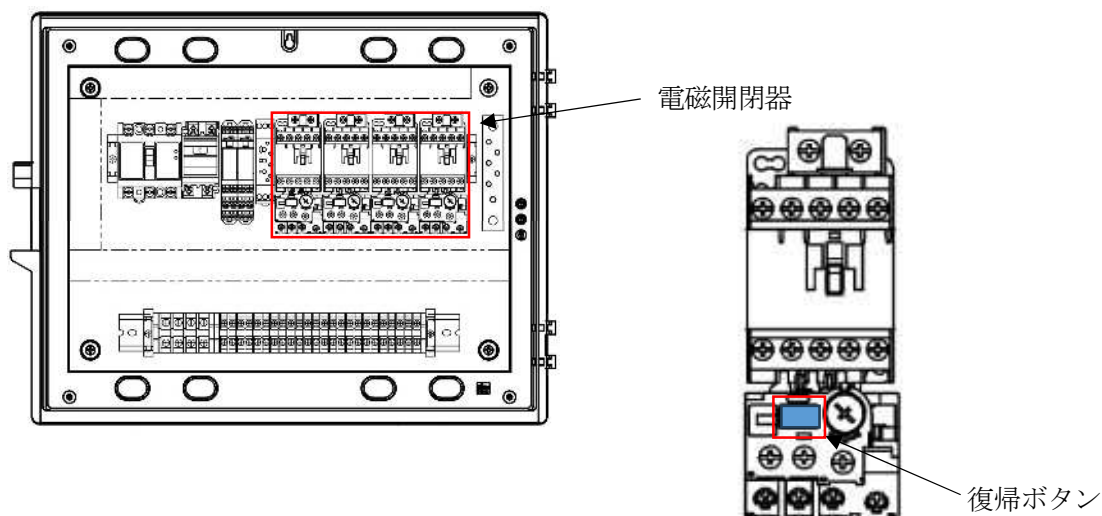
ファン動力盤に異常が発生すると、噴霧器(CLJ)の運転及び噴霧が停止します。

①噴霧器(CLJ)の漏電

噴霧器(CLJ)が漏電するとファン動力盤の漏電ブレーカが落ちます。
問題個所を修理したあと、ブレーカを「ON」にして復帰させてください。

②噴霧器(CLJ)の故障

噴霧器(CLJ)に負荷が掛かりすぎて過電流が流れるとファン動力盤内の電磁開閉器サーマルが動作します。
問題個所を修理したあと、電磁開閉器の復帰ボタンを押して復帰させてください。



5. ご使用方法

(1) 運転準備

① 電源供給

CLJ-Dome 制御盤 G、ポンプ動力盤、ファン動力盤に電気が供給されていることを確認してください。

② ポンプへの給水

ポンプのタンクに水を供給してください。

※タンクが満水であることを確認してください。タンク満水による空運転はポンプ故障の原因になります。

③ 配管の確認

配管部品、各機器がしっかり固定され、締め付けられているか確認してください。

※配管に問題があると水漏れの原因になります。

④ ブレーカ「ON」

CLJ-Dome 制御盤 G、ポンプ動力盤、ファン動力盤の漏電ブレーカ及びサーキットプロテクタを「ON」にし、CLJ-Dome 制御盤 G 側面のスイッチを入れてください。またポンプの運転スイッチを「RUN」にしてください。

⑤ 噴霧条件の設定

CLJ-Dome 制御盤 G で噴霧できる条件を設定してください。

※噴霧できる条件の設定及び確認方法は

CLJ-Dome 制御盤 G の取扱説明書(NKG23M123 最新版)を参照してください。

※噴霧を止めたい系統の確認

噴霧を止めたい系統がある場合は、噴霧器(CLJ)手前の止水バルブが閉状態になっていることを確認し、スイッチを「OFF」にしてください。

※止水バルブが開いた状態で、スイッチを「OFF」にすると、周囲を濡らす恐れがあります。

(2) 自動運転

運転選択スイッチを「自動」にしてください。

噴霧条件を満たすと CLJ-Dome 制御盤 G より運転信号が入力され、噴霧器(CLJ)が回り噴霧が始まります。

※自動運転時は CLJ-Dome 制御盤 G を「自動」にしてください。

CLJ-Dome 制御盤 G の制御内容については、「4.制御について(1)自動運転」の項目を参照ください。

※ファン動力盤を複数台使用している場合は、全てのファン動力盤の運転選択スイッチを「自動」にしてください。

(3) 連続運転

運転選択スイッチを「連続」にしてください。

噴霧器(CLJ)は回り続け、噴霧条件により霧の噴霧を ON/OFF します。

※連続運転時も CLJ-Dome 制御盤 G を「自動」にしてください。

連続運転の制御内容については、「4.制御について(2)連続運転」の項目を参照ください。

※ファン動力盤を複数台使用している場合は、全ての運転選択スイッチを「自動」または「連続」にしてください。全ての運転選択スイッチを「停止」以外にしないと噴霧が開始しません。

※連続運転時は CLJ-Dome 制御盤 G を「停止」にしてもファンは止まりませんのでご注意ください。

(4) 運転終了時

① スイッチ操作

運転選択スイッチを「停止」にしてください。

② ブレーカ「OFF」

ポンプの電源を「OFF」にしてください。その後、CLJ-Dome 制御盤 G、ポンプ動力盤、ファン動力盤の漏電ブレーカ及びサーキットプロテクタを「OFF」にしてください。

③ 給水の停止

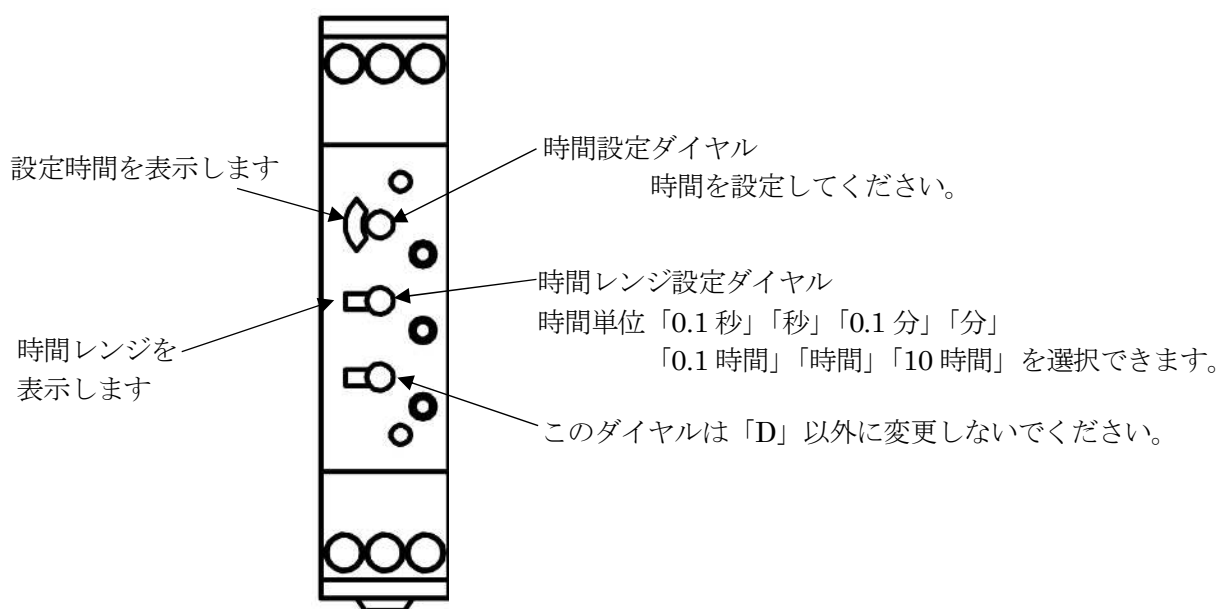
ポンプへの給水を停止し、ポンプタンク及び配管内の水を抜いてください。

6. タイマについて

ファン動力盤内のタイマ値を変更することで、

自動運転時のポンプ停止後に噴霧器(CLJ)が遅延動作する時間を変更できます。

初期値はポンプ停止後の 5 秒後に噴霧器(CLJ)ファンが停止します。



7. お手入れ方法

一般的な整備、点検内容とその方法については次に示すとおりです。

ただし、機械の調子や作業条件などによっては、点検箇所や点検時期を適宜修正しなければなりません。また、点検にあたっては責任者を定めておくとともに、整備点検表を使用して整備点検漏れのないようにしてください。

(1)毎日整備点検

整備項目	整備要領
圧力計の指示圧力の調整	6. 0MPa±1MPaであることを確認。範囲外の場合は、ポンプの取扱説明書を参照して調圧してください。
噴霧器 (CLJ) 回りの水漏れ	噴霧器 (CLJ) の周囲が濡れていないかを確認してください。濡れている場合は使用を中止し、水漏れ箇所を修理してください。「8. 故障かな? と思ったら」を参照して対策を行ってください。
CLJ-Dome 制御盤 G のタッチパネル画面「アラーム」ランプ	タッチパネルのアラームランプが点灯していないかを確認。点灯している場合は異常が出ています。異常の内容は CLJ-Dome 制御盤 G の取扱説明書(NKG23M123 最新版)を参照して原因を取り除いてください。
噴霧器 (CLJ) やポンプ動作時の異音	異音がある場合、各取扱説明書を参照して原因を取り除いてください。
配管の振動	噴霧中に配管からの音鳴りや、異常に振動がある場合は配管支持方法を見直してください。

(2)毎週整備点検

整備項目	整備要領
配管継手部水漏れ	増し締め、又は、シールテープを巻き直して締め直してください。

(3)毎月整備点検

整備項目	整備要領
噴霧器 (CLJ) の取付けの緩み点検	噴霧器 (CLJ) を固定しているボルトに緩みが無いか確認をして、緩んでいた場合はボルトを増し締めしてください。
噴霧器 (CLJ) の吸い込み口の点検	吸い込み口のホコリを取り除いてください。
ノズル噴霧口の点検	噴霧口部に目詰まり等が発生しているときには、ノズルを配管から取り外し、柔らかいブラシ等で異物を取り除いてください。
給水フィルタの確認	ゴミが詰まっていれば交換してください。

(4)ポンプの定期点検（必要に応じ、最低 3 か月に一度実施）

[詳細はポンプの取扱説明書参照]

整備項目	整備要領
オイル量の確認	オイル量を確認し、減っている場合は補充してください。

(5)毎年整備点検

整備項目	整備要領
電装品の点検 (電磁開閉器、リレー、 端子台)	接点及び可動状況を点検する。 (a) ターミナルの緩み、接点の接触状況、その他 (b) うなり、振動の発生有無 (c) 絶縁の良否 (d) 油脂、塵埃などの付着

8. 故障かな？と思ったら

「故障かな？」と思ったら、お問い合わせの前に以下のことについてご確認ください。
以下の確認で問題なく、それでも故障が直らない場合は、弊社までご連絡ください。

No	現象	確認事項	確認方法	対応
1	噴霧しない	ポンプユニットに水が供給されているか？	大元の水栓が開いているか確認	水栓を開ける
			大元の水圧は、0.2MPa 以上あるか確認	水圧を上げる
			止水弁が閉じていないか確認	止水弁を開ける
			フィルタが詰まっていないか確認	フィルタエレメントの交換
		ポンプは回っているか？	盤端子台への配線が外れていないか？	正しく繋ぎ直す
			圧力異常が発生していないか確認	圧力の確認
			CLJ-Dome 制御盤 G の端子台 N24-X03 への配線が外れてないか確認	配線の接続確認
			ポンプ動力盤のサーマルが切れていないか確認	ポンプ動力盤の電磁開閉器を復帰操作する
			ブレーカ類が落ちていないか確認	不具合を確認のうえ、ブレーカを ON
			ファン動力盤の運転選択スイッチは「自動」又は「連続」になっているか確認	運転選択スイッチを「自動」又は「連続」にする
			調圧弁で 6.0MPa の吐出圧があるか確認	調圧弁で液圧を調整
		残圧抜き用電磁弁は閉じているか？	結線の確認とテスターで電圧の確認 ※残圧抜き電磁弁はポンプユニット内に接続されています。	販売店にご相談ください
		水漏れの確認	ホースが外れていないか確認	ホースを正常に繋ぎ直す
		ノズルが目詰まりしていないか？	ノズル噴孔部の確認	ノズル取扱説明書に従ってノズルを掃除する
		温湿度の設定は正しいか？	CLJ-Dome 制御盤 G のタッチパネルで温湿度設定値が適正か確認	CLJ-Dome 制御盤 G の取説に従って再設定する
		サーマルはトリップしていないか？	ファン動力盤の電磁開閉器がサーマルトリップしていないか確認	故障箇所を修理し、電磁開閉器の復帰ボタンを押す
		バルブを閉めていないか？	ノズルに向かうまでの配管のバルブが閉まってないか確認	バルブを開く
2	噴霧器(CLJ)が動作しない		CLJ-Dome 制御盤 G 端子台への接続が外れていないか確認	正しく繋ぎ直す
			圧力異常が発生していないか確認	圧力の確認
			ファン動力盤末端の X03(I) - N24(I)を繋いでいるジャンパ線が外れてないか確認	ジャンパ線の接続確認
			ブレーカ類が落ちていないか確認	不具合を確認のうえ、ブレーカを「ON」する
			ファン動力盤の電磁開閉器がサーマルトリップしていないか確認	故障箇所を修理し、電磁開閉器の復帰ボタンを押す
			噴霧器(CLJ)の電源スイッチが OFF になってないか確認	噴霧器(CLJ)の個別電源スイッチを「ON」する

9. 仕様

ファン動力盤(G1-150-2)

項目	仕様	備考
電源電圧	3 相 AC200V 50/60Hz	—
噴霧器 (CLJ) 台数	CLJ-590 (KU) 2 台	—
使用温度・湿度	0～40℃、35～85%	結露なきこと。
消費電力	約 20W	ただし、噴霧器 (CLJ) の消費電力は含みません。
動力盤	色彩：5YR8.5/0.5（ホワイトグレー）	材質：プラスチック
サイズ	W500×H400×D180	突起部は除く。
重量	約 13 kg	—

ファン動力盤(G1-150-4)

項目	仕様	備考
電源電圧	3 相 AC200V 50/60Hz	—
噴霧器 (CLJ) 台数	CLJ-590 (KU) 4 台	—
使用温度・湿度	0～40℃、35～85%	結露なきこと。
消費電力	約 35W	ただし、噴霧器 (CLJ) の消費電力は含みません。
動力盤	色彩：5YR8.5/0.5（ホワイトグレー）	材質：プラスチック
サイズ	W500×H400×D180	突起部は除く。
重量	約 15 kg	—

株式会社 いけうち
<https://www.kirinoikeuchi.co.jp/>

〒550-0011 大阪府大阪市西区阿波座 1-15-15 第一協業ビル
Tel : 0120-997-084 Fax : 06-6538-4023 E-mail : mist@kirinoikeuchi.co.jp

各地の営業所情報はこちらをご参照ください。

<https://www.kirinoikeuchi.co.jp/company/location/>